

日本における初級中国語教育の研究

—語彙の視点から—

柳 宇 星

Liu YUXING. A Study of Elementary Chinese Education Japan – From the Perspective of Vocabulary –. *Studies in International Relations* Vol.41, Consolidated Edition. February 2021. pp.121-128.

According to previous research, beginner vocabulary is divided into 2 types those are basic vocabulary and general vocabulary.

This study focuses on the basic vocabulary in the beginner's vocabulary and conducts a concrete analysis.

Assuming that the user of the text is a Japanese university student, to create better "Basic Vocabulary Table" in quality and in quantity, I perform statistics on the vocabulary that appears in various texts used in Japanese universities and consider the advantages and problems of vocabulary appeared in each text. That will lead to effective rules for text compilation.

1. 序

本研究は、日本の大学に於ける初級中国語教育で初学者に教えるべき語彙について考え、初級教学に於いて教えるべき語彙を「基礎語彙表」の形で提供し、さらに、初級学習者のために提供すべき語彙をどのように定めるべきか、ということについての法則を作製しようとする試みである。

2. 初級基礎語彙表の確定

初級語彙は基礎語彙及び一般語彙の2種類に分かれる¹。基礎語彙とは、日常生活のコミュニケーションの中で頻繁に出現する語彙であり、時代の変化により多少の変遷はあり得るが、頻繁には変わらないものである。一般語彙とは、基礎語彙以外の、初級中国語を学習する過程で理解しておくべき語彙を指す。本篇は基礎語彙を中心として具体的な分析を行う。

基礎語彙についての先行研究としては、史有為(2006)「中国語教学最低量基礎詞彙研究」(『明海大学大学院応用言語学研究科紀要』2006)が「最

低量基礎詞彙表」²を示している。また、『高校学校の中国語と韓国語朝鮮語学習のめやす(試行版)』(財団法人国際文化フォーラム出版2007)³の中に基礎語彙が提示されている。中国では、「対外漢語教学初級段階大綱」⁴が、1999年に北京語言大学出版社から出版されて、習得段階別に基本語彙が示されている。

上記の先行研究の内、史有為(2006)及び「対外漢語教学初級段階大綱」で扱われる語彙は、世界のどの国でも使うことができる目的で作られており、また学生とか実務者というように学習対象を定めていない。一方、『高校学校の中国語と韓国語朝鮮語学習のめやす(試行版)』は、明確に日本の高校生を対象としている。

本節では、対象を日本の大学生と定め、日本の大学で使うテキストを作るために参考となる「基礎語彙表」を制作する。

本節で扱うテキストの範囲は1993年から2004年に出版されたものとする。本章は多種のテキストの語彙を統計し、現在の日本の学習環境にふさわしい語彙表を確定することを目的とする。表-1に記した9冊のテキストを研究対象

とした。それらのテキストに用いられる語彙を統計し、比較対照したのちに、これらのテキストがどういう原則に基づいて語彙表を編纂しているのかを考察し、各テキストの語彙選択及びテキスト編纂の特徴をまとめる。そこから、各テキストの語彙選択の良い点及び問題点を考察した上で、本章の目的とする「基礎語彙表」の「質」と「量」を決め、「基礎語彙表」を確定し、今後のテキスト編纂のための参考として提供する。

次に挙げるのは、分析の対象としたテキストである。

表-1 テキスト概況一覧表

	テキスト名	出版社	発行時間	語彙数
大	チャイニーズ・プ ライマー	東方書店	1993	920
明	中国語 1/2	明海大学	2001	1837
1	新版・例解中国語 入門 你问我答	白帝社	1999	485
2	ラクラクチャイ ニーズステップ アップ	駿河台出版 社	2001	206
3	初級会話テキスト 表現する中国語	白帝社	2001	292
4	発信型中国語初級 テキスト	光生館	2001	426
5	300 語ワールド 版 一年生のころ	朝日出版社	2004	343
6	理香と王麗 -- 話 す中国語 1--	朝日出版社	2004	355
7	話したくなる中国語	朝日出版社	2004	371

上記の表-1のうち、「大」と「明」はそれぞれ大阪外国語大学と明海大学の中国語専攻の1年生の為に作られている。1から7は、第2外国語の授業のために作られ、市販されている。

2.1 初級語彙に於ける「量」の確定

表-1を見ると、「明」の語彙数は「大」の倍である。表-1の「1」から「7」までのテキストは、週に1回ないし2回の第二外国語の授業で使う目的で作られた、市販のテキストである。これらのうち、語彙数が一番多いものは485語、一番少ないものは206語である。ここからも、現在の日本における中国語専攻テキストの編纂につい

ては、語彙についての統一的な模範がなく、教えるべき語彙の数も決まっていないことが分かる。この点を考えると、日本の大学という学習環境で学習する初学者のために「基礎語彙表」を作ることには意義があることが言える。

初級中国語テキストにおいて、一体どのぐらいの語彙数を習得することが必要か、また、初級テキストにはどのような語彙が適切かという点について、これから具体的に考察及び分析を行う。

先に述べた9冊のテキストの語彙についての比較を行う。方法としては、9冊のテキストの内、何冊にその語が使われているか、という頻度のデータを取り、その語彙数を比較する。たとえば、ある語が9冊の内の3冊に使われていたとする。その場合には、出現頻度を3とする。同じテキストの中に同じ語が何回出てきても、その語の出現頻度は1とする。そのような語彙出現の頻度を統計し、各テキストの語彙表に共通に出現する語彙について考察を加える。ここから、日本における初級中国語テキストの語彙表の現状を明らかにし、テキスト編纂の規律を探りたいと思う。先に述べたように、史有為(2006)は、コミュニケーションに必要な最低数の語彙を定めた「史有為基礎詞彙表」を発表したが、この表に記される語彙は562語である。さて、今回取り上げた9冊のテキストのうち、いずれかの5冊のテキストの中に共通して出現した語彙数は523語で、この語彙数は、「史有為基礎詞彙表」の語彙数に近い。いずれかのテキスト4冊またはそれ以下に共通して出現した語彙は、それぞれのテキストの個性によって選ばれた語彙であると考えられる。1冊以上～5冊以下のテキストに出現した語彙数を統計すると、その語彙数は3067語であった。この数字は中国における対外中国語用の「対外漢語教学初級段階大綱」の初級段階に要求されている語彙数(3000語)と近い。2冊のテキストに共通に出現する語彙を累計すると、その語彙数は1313語となる。残りの1754語は、それぞれのテキストにより、目的が違い、特性がある語彙で、今後どのようにテキストに取り込むか検討されなければならない。

ここまでの研究分析により、次のような仮説を

設定した。現行の初級中国語テキストの多くに共通する語彙の数は523語であり、これを暫定的な基礎語彙とする。また、2冊以上のテキストに出現した語彙（1313語）を暫定的な一般語彙とする。

本節では、基礎語彙の数を設定した。次節では、どのような語彙を教える必要があるかについて考察し、初級中国語語彙表を確定した上で、テキストを編纂する際に必要な規律を探る。

2.2 「基礎語彙表」の「質」についての考察

初級語彙表にはどんな語彙が適切かという、「基礎語彙表」の「質」について考察する。適当な語彙を確定するために、まず考えるべきことは、学習対象国（ここでは日本を指す）の国情にふさわしい語彙か、ということである。ここでは前節で仮定した523語の語彙が日本における中国語初級学習者を満足させることができるか、この523語の語彙は全て「基礎語彙表」にふさわしい語彙であるか、についての考察を行う。この考察を行う際には、主に以下の2つの原則を考える。

原則1 先行研究のデータを統計し、分析と比較を行う。

史有為（2006）《中国語教学最低量基礎詞彙研究》、財団法人国際文化フォーラム（2007）《高校学校の中国語と韓国語朝鮮語学習のめやす（試行版）》、全国高等学校中国語教育研究会（1999年）《高校中国語教育のめやす》の3つの先行研究を取り上げ、この3つの先行研究に共通した語彙を参考にして、「基礎語彙表」の中の語彙を確定したいと考える。

この3つの先行研究にある話題と語彙の相違点を比較検討し、それによって、各先行研究が採用している語彙の特性を明らかにして、日本の初級テキスト編纂の法則を考える参考にする。

まず、この3つの先行研究の語彙を電子データ化して比較対照した。その結果、3つの先行研究の語彙表に共通して出現した語彙は176語であった。さらに、中国語の習得規律に合うかについて確認するため、この176語の語彙を「対外漢語教学初級段階詞彙大綱」（以下「初級詞彙大綱」という）の1級語彙表及び「漢語水平詞彙

与漢字等級大綱」⁵（以下は「漢語水平詞彙大綱」という）の甲級語彙表と比較した。この2冊の大綱は中国における対外中国語教育の基礎であり、テキストを編纂する際に参考とされるものである。比較の結果を下の対照表とした。

表-2 3つの先行研究で共有した語彙数と「初級詞彙大綱」「漢語水平詞彙大綱」の対照表

3つの先行研究で共有した語彙数	「初級詞彙大綱」1級語彙表	「漢語水平詞彙大綱」甲級語彙表
176 個	156 個	155 個
100%	88.6%	88.1%

「初級詞彙大綱」1級語彙表と「漢語水平詞彙大綱」甲級語彙表は両方とも、中国語教学の中で最も出現頻度が高い語彙を取り上げて作成した初級学習者のための語彙表である。3つの先行研究に共通して出現した176語のうち、「初級詞彙大綱」1級語彙表の中には156語が出現し、「漢語水平詞彙大綱」甲級語彙表の中には155語が出現し、2つの大綱に共通に出現したのは151語である。この数字から、176語の内151語の語彙は基礎語彙として本章で制作する「基礎語彙表」に入れるべきであると考えた。「初級詞彙大綱」1級語彙表と「漢語水平詞彙大綱」甲級語彙表の片方にしか出現していないのは次の26語である。

爱好（名/動）、棒球、包（名/量/動）、厕所、唱、地铁、耳朵、发、寒假、裤子、筷子、面条、暖和、嗓子、书包、暑假、叔叔、酸、台、甜、头、网球、咸、眼镜、圆珠笔、杂志。

この26語については下記の法則によって「基礎語彙表」に入れるかどうかを判断したいと思う。

法則1 日本の国情にふさわしいか。

中国と日本では、文化の違いにより、生活習慣、趣味、利用する交通機関も違う。そこで、使用される語彙も違うと考えられる。この点を考え、日本の現状に即して、下の言葉を「基礎語彙表」に入れるべきだと判断した。

爱好、唱、网球、棒球、地铁、杂志

法則2 日本人の会話習慣にふさわしいか。

日本人は他人と挨拶するとき、季節、天気、仕事、食事、身体などの言葉をよく使用するので、これらの語彙は「基礎語彙表」に不可欠である。この

点を考え、下の言葉を「基礎語彙表」に入れるべきだと判断した。

暖和、叔叔、酸、甜、咸、头、耳朵

法則 3 類似語彙の連想。

法則 1、法則 2 により「基礎語彙表」に新しい言葉を入れることになった。さらに、これらの言葉と同類の語や同じ使い方の語も、基礎語彙として「基礎語彙表」に入れるべきだと考えられる(斜体は新たに入れる語彙)。

同じ類言葉：

天気の実現について：暖和→**热**、**凉快**、**冷**

食事の実現について：面包、米饭→**面条**

味の実現について：酸、甜、咸→**苦**、**辣**

五感の実現について：头、耳朵→**鼻子**、**眼**、**口**

同じ使い方

呼び方の実現について：**叔叔**→**阿姨**

類似の実現について：**书包**→**包**

法則 4 生活に必須であるか。

多数のテキストには、「**图书馆在哪儿?**」など場所を聞く話題が多く、レストランに行ったり、デパートに行ったり、観光地に行ったりする。こうした時、「**厕所(トイレ)**」は不可欠な言葉である。生活に必須であるこの語を語彙表に入れるべきだと判断した。ここで、3冊の先行研究で共有した語彙と「初級詞彙大綱」「漢語水平詞彙大綱」の語彙表に同時に共有した 151 語以外、以上の 4 つの法則により、下の 25 語を「基礎語彙表」に入れ、合計 176 語とした。

表-3 加えるべき語彙

法則 1 により	爱好、唱、网球、棒球、 地铁、杂志
法則 2 により	暖和、叔叔、酸、甜、咸、 头、耳朵
法則 3 により	热、凉快、冷、面条、苦、 辣、鼻子、眼睛、口、 阿姨、包
法則 4 により	厕所

次に、出現頻度が高い語彙について統計し、分析と考察を加える。今回考察した 9 冊のテキストのうち、5 冊のテキストの中に共通して出現した語彙の 523 語を「漢語水平詞彙大綱」の甲級語彙表と比較し、本章の「基礎語彙表」の語彙を

充実させようと思う。この考察の過程で、いくつかの疑問点に気づいた。この疑問点について考えることは、語彙表の作成及びテキスト編纂に対して有意義だと思うので、次に述べる。

疑問点 1 「範囲外」語彙の出現

先に、8 冊に共通する語彙及び 9 冊に共通する語彙を考察して共通語彙を調査した際に基礎語彙として仮定した共通語彙のうち、「漢語水平詞彙大綱」の甲級語彙表に出現せず、もっと上級の学習者を対象とした乙級及び丙級語彙表に出現する語が多いことに気づいた。この理由は 2 つ考えられる。第 1 の理由は、日本における初級語彙は中国で考えられている初級語彙よりも高度な内容を持つ傾向があることである。第 2 の理由は、中国における中国語初級教学の内容と日本の初級教学内容に、国情により、習慣によって違いが出ることである。

疑問点 2 数詞、代名詞など頻度が高い語彙の取り扱い場所

表-1 の「1」から「7」までの 7 冊のテキストを考察した際、「一」から「十」までの数字、「你、我」などの代名詞が、各テキストの「新出語彙表」に入れられていないことが多い。それらは、最初に付けられている発音篇とか、各課の注釈などに書かれている場合が多い。数字や代名詞は初級中国語学習で必ず身につけないといけないものであり、初級テキストには当然出てくる語彙である。ここから、各テキストの「新出語彙表」に、テキストの語彙全てが書かれているわけではないことがわかる。テキスト編纂の便宜の上から仕方のない面もあるが、語彙教育の面から見れば、語彙は全て「新出語彙表」や「語彙索引」に入れるべきだと考える。

疑問点 3 「時代遅れ」の語彙が出現

5 冊に共通する語彙及び 6 冊に共通する語彙を考察した際、時代の変化により、時代の状況に合わずに改版されないままになっているテキストが見られ、現代に合わない語彙が今でも使われている。たとえば「ラジオ」という言葉である。20

年前であれば、日常生活で不可欠な家電として扱われていたが、電気製品が年ごとに新しくなる現在の社会で、大学生の間では、ほとんど使われなくなっている。このような語彙は「基礎語彙表」に入れないほうが良い。

以上の考察により、さらに「基礎語彙表」の語彙が充実してきた。ただし、上述の疑問点が解決されなければ、「基礎語彙表」の「質」はまだ確定できない。更に各テキスト本文の話題から改めて語彙を取り上げ、ここまでのデータ収集と統計の不足を補いたい。

3. 本文話題から取り上げた語彙についての考察

ここでは、9冊のテキストの内、表-1の「1」から「7」までの7冊のテキストの本文話題から全ての語彙を取り上げ、今まで考察したデータと比較した上で補足し、今までのデータに出現していない語彙を「基礎語彙表」に取り込んで、最終的に「基礎語彙表」を確定し、さらにテキスト編纂の法則を探りたいと考える。9冊のテキストのうち、大阪外国語大学と明海大学の2冊のテキストは中国語専攻1年生用のテキストで、専攻向けのオリジナルテキストであり、ここでは対象外とする。7冊のテキストは一般初級中国語学習者向けの同じような種類のものなので、最終的に同じ傾向が出やすいのではないかと考える。

3.1 本節の研究手法

- 1) 7冊のテキストの本文に出現した語彙と「新出語彙表」に書かれている語彙を比較し、相違点を見つける。
- 2) 語彙の相違点を調査し、相違の原因を考察する。
- 3) 本文に出現していて、「新出語彙表」に収録されていない語彙について「基礎語彙表」に取り込むべき語彙があるか考える。
- 4) 以上の作業を通じて取り上げた語彙を考察し、最終的に「基礎語彙表」を確定する。

3.2 本章の語彙データは以下の原則を根拠として統計した。

- 1) 発音編に出現した語彙は統計範囲外とする。

- 2) コラム欄に出現した語彙は統計範囲外とする。
- 3) 重ねて出現した語彙は1回として統計する。
- 4) 人名、地名など固有名詞は単独に統計する。

以上の方法によって、7冊の初級テキストに対し詳細に考察を行った。分析する過程で、「基礎語彙表」に語彙を補足し、さらに7冊のテキスト編纂の特徴及び問題点を発見した。

3.3 7冊のテキスト編纂の特徴について

- 1) 日本における学習環境を考慮するものが多い。テキストに出現した語彙は日本の生活環境を中心に選ばれていた。
- 2) 学習者の学習ニーズを考慮するものが多い。学習対象を大学生と確定したうえで、学習環境の背景を設定していた。
- 3) テキストの面白みを重視していた。話題は学習者の身近な生活環境を中心とし、学習者が興味を持つように考えられていた。
- 4) テキストの実用性を重視していた。生活によく使用する語彙、話題を学習した後ですぐ使えるような発話話題の条件を整えていた。
- 5) 時代の特徴を考慮するものが多い。
「漢語水平詞彙大綱」にない新しい語彙も使って、時代と結び付けた話題を取り上げていた。

3.4 7冊のテキスト編纂の問題点について

- 1) 学習者の興味を引き出すために、初級テキストにふさわしくない、難易度が高い語彙を用いているものがあつた。たとえば、あるテキストには「枪」「军训」「气功」など、日本の大学生が理解するのが難しいと思われる単語が出てくる。
- 2) 各課の本文の話題の難易度がまちまちで、新出単語の数も一定していないものがあつた。
- 3) 学習者のレベルを考えず、本文に深みがないものがあつた。
- 4) 基本的な語彙でも、「新出語彙表」に記されていないものがあつた。
- 5) 「新出語彙表」の解説に、本文の解釈にのみ使えるような狭い意味が挙げられていて、応用がきかないようなものがあつた。

4. 法則の提案

上記に記した7冊のテキストの特徴及び問題点の考察と、語彙データの統計から、「基礎語彙表」を制定するための次のような法則を見つけた。この法則は、今後のテキスト編纂及び初級テキスト語彙の選択についての参考になるだろうと思う。

法則1 頻度統計の角度から

語彙出現頻度の統計については、以下の原則による。

- 1) 常用性原則：本文の中に出現した回数の多少により語彙の常用程度が判断できる。
- 2) 均衡性原則：1つの語彙は、異なる体裁の文献に出現する回数が多いほど、一般的な使用頻度が高い。

上記の法則により、テキストを編纂する際に、どのような語彙を常用語彙としてテキストに取り込めばよいか判断できるので、この2つの原則は、語彙選択の根拠になると考えられる。

法則2 言語学の角度から

語彙を選択する際に用いる、2つの原則を提案する。

- 1) 科学性原則：品詞の記述方法は用法によって異なるので、言語学の知識が必要である。また、たとえば、接頭詞と接尾語はどのような形で語彙表に取り込むか、四字熟語及び慣用語はどのようなタイミングで語彙表に取り込むかなどについても、言語学の知識がなければならない。
- 2) 規範性原則①：方言として使用されている語彙は語彙表に取り込むことができない。特に、「儿化」「轻声（軽声）」については、標準語であるか、方言であるかについての基準を作る必要がある。

規範性原則②：「動賓構造」「動補離合詞」などの語彙の品詞表示の基準を作る。

これらの法則が整備されれば、テキストを編纂する際に、選択された語彙の品詞の表記が正確かどうかについての客観的な根拠ができ、さらに語彙の難易度について把握することができる。

法則3 日本における中国語教学という角度から

語彙を選択する際、日本における中国語教育環境の実情を考慮するために、以下の2つの原則

を提案する。

- 1) 実用性原則：日本の国情と文化背景から、実際に出現する頻度が高い語彙を選ぶ。日本の日常生活に融合しやすく、使用される機会が多い語彙を選択する。
- 2) 連想性原則：語彙の遺漏を避けるため、密接に関わる語彙を一定の範囲内で取り込む。密接に関わる語彙のいずれを語彙表に取り込むかについては、次の2つの条件が挙げられる。1つはその語が頻繁に使用されているか、もう1つは取り込む語彙数が適当か。

この法則により、テキストを編纂する際に学習環境を考慮に入れることができ、範囲外の語彙を取り込む可能性が低くなる。こうして選択された語彙は、学習者が短期間で身に付けることができると期待される。

法則4 学習者が「学ぶ」角度から

語彙表に取り込んだ語彙は「教える」側が満足するだけでなく、「学ぶ」側が満足できるようにしなければならない。そのために以下の2つ原則を提案する。

- 1) 寛容性原則：基本的な意味に近い2つまたは3つ以上の語彙の場合は、基礎的な語彙だけを挙げて語彙の数を制御する。たとえば、同じ意味に使われる「面」と「面条」を混ぜて使うと初学者は混乱するので、どちらか一方にする。
- 2) 序列性原則：語彙の学習について、簡単な語彙から難しい語彙へと、順を追って提出する。各教学段階の目標に合わせ、難易度を徐々に上げる。

この法則により、教授者と学習者の双方にとって、授業の負担や抵抗を減らすことができる。

5. 研究のまとめと今後の課題

以上の研究方法を通じ、本編では次のような3つの成果を得たと考える。

第一、「基礎語彙表」の制定

教授者と学習者双方の立場に立って、日本人初級中国語学習者向けの「基礎語彙表」517語の語彙を確定した。この表は章末に添付した。

第二、日本に於ける中国語初級テキスト編纂の特徴及び問題点

大量の資料を統計し、各テキストの語彙の分析を通じて、初級テキストの編纂の特徴や問題点がテキストによって異なることに気づいた。

第三、テキスト編纂の法則

今後のテキスト編纂の拠り所となる法則を提案した。本章では以上3項目の成果を得たが、今回得られた成果も完全とはいえない。また、研究の過程において、更に検討が必要な問題が発見された。今後、引き続き以下2点について研究を続けていくつもりである。

1) 中国語専攻の学習者向けの「基礎語彙表」

本章では、「基礎語彙表」の「数」及び「質」を決めたが、中国語専攻の学習者にとっては、1年間の学習に518語の語彙では満足できないと思われる。本章で定めた「基礎語彙表」は第2外国語学習者を対象として提案するものである。今後は中国語専攻の学習者に向けた、拡大した「基礎語彙表」を制定したいと考えている。

2) 「中級語彙表」の制定

今回と同じ研究方法で、中国語中級テキストを分析し、現行の中級テキストに存在する問題点を見つけた上で、中国語中級学習者の為の「中級語彙表」を制定したい。

以上2つの課題について、今後も継続して研究を行い、更に深く、正確なデータを作り、日本の中国語教育に微力ながら貢献したい。

*次の頁に、本章で提案する「基礎語彙表」を載せる。

参考文献

- 1 先行研究: 李如龍 (2004) 商務印書館に出版された「**词汇学理论与应用**」に、基礎語彙と一般語彙の考え方が提案されている。
- 2 史有為 (2006) 「中国語教学最低量基礎詞彙研究」(『明海大学大学院応用言語学研究科紀要』2006) とは、中国語初級教学向けの基礎語彙の研究を中心とし、初級段階でコミュニケーションを行うために、話題を設定し、それに即した語彙を抽出した研究である。この中に「基礎語彙表」がある(以下「史有為基礎詞彙表」という)。
- 3 『高校学校の中国語と韓国語朝鮮語学習のめやす(試行版)』(財団法人国際文化フォーラム出版2007) は、高校生初級教学向けの基礎語彙の研究を中心とし、高校のキャンパスでコミュニケーションするために話題を設定し、それに即した語彙を抽出して、学習の目安とする本である。この中に「基礎語彙表」がある。『高校中国語教育のめやす』とは、1999年に全国高等学校中国語教育研究会が公開した、高校初級教学向けの「基礎語彙表」である。
- 4 「**対外漢語教学初級段階大綱**」とは、1999年に北京語言大学で出版され、一級語彙993語、二級語彙1711語の語彙表を提案しており、中国において初級語彙編纂の参考基準とされる文献である。教学対象を明確にし、教学目标を設定し、授業と試験の範囲を定め、実際の授業を指導し、教学の質及び教学レベルを促進する為に作られたものである。
- 5 「**漢語水平詞彙与漢字等級大綱**」(中国国家漢語国際推広領導小組辦公室、1992) は、HSK(漢語水平考試)に用いられる語彙を等級別に表にしている。

基礎語彙表

A (5)	啊 (助/叹) 爱好 (名/动) 阿姨 矮 安静
B (28)	爸爸 班 棒球 帮助 报 包 (名/量/动) 杯子 鼻子 比 (介/动) 不用 半 被 本 (名/量) 别 (副) 不 比较 (副/动) 把 (量/介) 百 帮 杯 (名/量) 北 遍 八 白板 必须 饱 报纸 不客气
C (24)	长 唱 常常 车站 吃 船 穿 床 窗户 / 窗 春天 / 春 词典 次 (量) 菜 茶 从 才 差 出 操场 尝 车 厨房 错 成绩
D (36)	大 打 戴 电话 电视 弟弟 地铁 冬天 / 冬 东西 短 到 大学 电影 对 (介/形/动) 的 懂 都 得 (助/助动) 等 对不起 多少 多 当然 打算 (动/名) 地方 带 大夫 第 点 电脑 地 点心 东 动 对面 读
E (4)	耳朵 饿 儿子 二
F (14)	饭店 放 房间 飞机 分 (名/量) 饭 非常 封 发 法律 发烧 风 父亲 放学
G (22)	干净 高 个 歌 哥哥 给 (介/动) 工作 (动/名) 贵 国家 跟 (介/连/动) 过 (动/助) 感冒 (动/名) 关 关照 刚才 告诉 更 公共汽车 挂 故事 高兴 (形/动) 高中
H (34)	汉语 号 (名/量) 好 河 喝 坏 回 (动/量) 火车 还 和 (连/介) 很 会 (助动/动) 好吃 话 孩子 欢迎 后天 好听 黑 黑板 红花 (名/动) 画 滑冰 后 后- 滑雪 活 汉字 换 好喝 好看 海 好久不见
J (26)	寄 家 (名/量) 件 健康 脚 角 叫 机场 姐姐 教 今天 就 (副/连) 几 今年 觉得 借 近 进 酒 饺子 交接 九 一极了 教材 精神
K (16)	咖啡 看 课本 口 (量/名) 块 裤子 苦 可以 (助动) 刻 (量) 开 快 课 看见 考试 (动/名) 筷子 哭
L (20)	来 老师 累 凉快 礼物 冷了 离 (动/介) 里 (名/量) 零 留学生 楼 (名/量) 旅行 老 (形/头) 辆 练习 (动/名) 留学 乱 六 绿
M (23)	卖 买 妈妈 忙 (形/动) 毛 妹妹 门 (名/量) 面包 面条 (儿) 米饭 名字 吗 明天 没关系 没、没有 (副/动) 明年 马上 明白 每 门口 帽子 母亲
N (26)	拿 年 暖和 (形/动) 哪儿 哪里 能 您 那 呢 你 你们 哪 难 那么 (代/连) 奶奶 那里 那儿 那样 男 年级 南 女 女儿 年轻 你好 您好
P (7)	便宜 (形/名) 票 漂亮 朋友 旁边 跑步 胖
Q (17)	骑 铅笔 起床 轻 秋 / 秋天 去 钱 请 千 前天 前 前一 前年 清楚 去年 取 七
R (10)	热 (形/动/名) 认真 日 日语 肉 人 让 (动/介) 热闹 (形/动) 容易 如果
S (40)	散步 山 上 上- 商店 上午 身体 食堂 手表 双 舒服 睡觉 叔叔 送 酸 岁 什么 是 时间 谁 时候 说 上课 所以 瘦 上 学 生日 试 收 树 水 水果 死 三 四 十 少 暑假 睡 手
T (21)	台 (名/量) 汤 甜 条 跳舞 听 同学 头 图书馆 太 他 他们 天 她 她们 天气 它 它们 跳 脱 听见
W (19)	网球 晚上 玩儿 袜子 屋子 完 为什么 问 我/我们 外- 碗 晚 位 问题 外 五 万 晚饭 忘
X (41)	想 (动/助动) 小 (形/头) 夏天/夏 喜欢 信 姓 (动/名) 星期 星期一 星期二 星期三 星期四 星期五 星期六 星期日 星期天 休息 洗澡 学生 学习 学校 现在 写 小时 学 小姐 下 下午 洗 闲 下课 下- 笑 西 先生 雪 小学 谢谢 先 咸 系 鞋
Y (37)	眼睛 要 (助动/动) 衣服 音乐 医生 医院 椅子 用 有 邮票 游泳 (动/名) 鱼 元 月 一点儿 一起 远 一定 银行 应该 以前 有点儿 颜色 药 一会儿 有意思 雨 一块儿 愿意 (助动/动) 愉快 一 眼镜 右 右- 因为 爷爷 有些
Z (48)	在 杂志 张 只 重 中间 中午 住 自行车 怎么 这 坐 怎样/怎么样 做 昨天 早上/早晨 站 真 准备 (动/名) 走 再见 着 (助) 这里 这儿 这么 最 再 咱们 早 找 正/正好 知道 字 作业 早饭 照片 这样 种 (量/动) 钟 中学 桌子 祝 自己 左 左- 中国语 照相机 嘴
共计	518 个